

本システムで得られる標高値について

(1) 標高値の計算方法

Web地図の画面をマウスで右クリックした場所の標高値は、その場所の経緯度の情報を用いて、国土地理院が整備した格子状の標高点のデータである「基盤地図情報数値標高モデル」(以下、「標高モデル」という。)から以下のように計算して表示しています。

- 1) 標高モデルの標高点のうち、経緯度で示される位置に最も近い4つの標高点の値を平滑化して得られる値を利用しています。
このため、計算値は標高モデル(やそのもととなる測定値等)とは完全には一致しません。特に局所的に起伏の激しい場所(切土・盛土)では乖離の度合いが大きくなる場合があります。
- 2) 標高値の計算においては、(2)に示す標高モデルのうち、利用可能な精度の良いものを使用しています。

(2) 使用している標高モデル

使用している標高モデルは、以下の測量方法によって得られた測定値を、一定間隔の標高点上の値に平滑化して得られます。標高点の間隔としては、5m、10m、250mの3種類があり、5m間隔の標高モデルは更にその測量方法によって精度の異なる2種類に分別されます。

以上のことから、同一経緯度であっても、異なる標高モデルで得られる標高値は完全には一致せず、また、地図から読み取れる標高値とも完全には一致しません。

なお、標高点の値は、地表面の測定値に基づいているため、構造物(建物、高架橋等)の高さを反映したものではありません。また、地図上で水部になっている地域であっても、標高の測量時点での潮位・水位によっては、陸部として標高が計測され、標高値が表示される場合がありますので、ご注意ください。



種別	測量方法	標高点格子の間隔	整備範囲	標高精度(標準偏差)
5m (レーザ)	航空レーザ 測量	0.2"×0.2" (約5m四方)	主要沿岸部・都市部 主要河川等	0.3m以内※ ²
5m (写真測量)	写真測量	0.2"×0.2" (約5m四方)	主要沿岸部・都市部	0.7m以内
10m※ ¹	1/2.5万地形図 等高線	0.4"×0.4" (約10m四方)	日本全国 (北方領土を除く)	5.0m以内※ ³

※¹ 写真測量によって図化された1/25,000地形図の等高線(10m間隔)から作成しています。

※² 0.3m以内という値は、地表面測定値がある標高点に限ります。

※³ 標高100m以下の平坦地における精度は、2.3m以内。

本システムで使用する標高データの整備範囲

-  5m標高モデル(航空レーザ(東日本大震災後の標高補正済み)及び写真測量)
-  10m標高モデル

